学校番号	1009

令和８年度　情報科

教科	情報	科目	情報Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「情報Ⅰ Step Forward!」　（東京書籍）						
副教材等	30時間でマスター　Office2021　（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・近年の情報技術の急激な変化に対応する為に、情報技術を活用した問題の発見と解決を中心とした学びを行います。ペアワークやグループワークでの学習も適宜行います。
・情報Ⅰでは、ＬＡＮ教室でしか取り組むことができない課題もあります。欠席時は必ず放課後残って取り組むようにしてください。
・提出物の期限は必ず守りましょう。定期テストは学習計画を立てて臨むようにしてください。
・コンピュータを使用するために必要な「ユーザーID」と「パスワード」は厳重に管理しましょう。

2　学習の到達目標

・効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。
・様々な事象を情報との結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向け情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
・情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識・技能を身に付け，目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために，情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて，思考を深め，適切に判断し表現している。	情報や情報社会に関心をもち、身の回りの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	1章 情報社会 2章 情報デザイン	オリエンテーション *ID とパスワードの設定・管理 08 情報セキュリティ 09 情報モラルと個人の責任 10 情報技術の進歩と役割 11 情報技術が社会に与える光と影 *文書作成ソフトの活用(Word) 06 知的財産 07 個人情報 *プレゼンテーションソフトの活用(PowerPoint) 13 情報のデジタル化 14 数値の表現 15 2 進数の計算 16 文字のデジタル表現 17 音のデジタル表現 18 画像のデジタル表現 19 データの圧縮 20 デジタルデータの特徴 〈番外編〉 *56 データ量の見積もり *パラパラまんがの作成	a:情報セキュリティで確保すべき要素を理解できる。 a:情報セキュリティに関する法規や制度を理解できる。 a:ソーシャルエンジニアリングにより情報が盗まれる理由が理解できる。 a:情報技術による社会や生活の変化が理解できる。 a:情報化による健康への影響やデジタルデバイドなどの「影」の部分を理解できる。 c:文章を正確に入力しようとしている a:知的財産権の定義と関連した法規を理解できる。 a:個人情報とは何か理解できる。 a:個人情報やプライバシーに関連した法規を理解できる。 b:正しい引用で表現できる。 b:個人情報が流出する原因を判断できる。 c:適切な方法でプレゼンテーションを行える a:コンピュータがどのようにデジタルデータを扱うか理解できる。 a:2 進法, 10 進法, 16 進法の数の変換ができる。 a:2 進法による加算と減算ができる。 a:文字コードについて理解できる。 a:文字コードの違いを理解できる。 b:画像と文字データの違いを考えることができる。 a:音のデジタル化の標本化, 量子化, 符号化が理解できる。 a:画像のデジタル化の標本化, 量子化, 符号化が理解できる。 a:動画の仕組みが理解できる。 b:解像度と色の階調からデータ量を考えることができる。 a:圧縮とその手法を理解できる。 a:可逆圧縮と非可逆圧縮の違いが理解できる。 a:デジタルデータのプラス面とマイナス面を理解できる。	・定期考査 ・実習課題	・定期考査 ・実習課題 ・発表	・振り返りレポート ・タイピング ・ワークシート分析 ・相互評価 ・発表

二学期	3章 プログラミング 4章 ネットワークの活用	*表計算ソフトの活用(Excel) 27 コンピュータの構成 28 ソフトウェア 29 処理の仕組み 40 ネットワークとインターネット 41 インターネットの窓口 42 デジタル通信の仕組み 43 安全安心を守る仕組み 44 情報システム *「とどらん」を使った統計分析と発表 46 情報システムの活用 49 データの収集と種類 50 データの分析 〈番外編〉 70 誕生日シミュレーション 74 ネットワーク調べ	c:表計算ソフトの使用方法を理解し、処理条件に応じた式を作成し、求めることができる。 a:基本ソフトウェアと応用ソフトウェアの違いを理解できる。 a:コンピュータの処理とデータの流れを理解できる。 a:ノイマン型コンピュータの仕組みを理解できる。 a:CPU でのプログラムの実行の仕組みを理解できる。 a:インターネットとはどのようなものか理解できる。 b:小規模ネットワークの構成を考えられる。 aいろいろな情報システムのサービスを理解できる。 a:情報のバックアップと，機材の故障等の対応方法を理解できる。 b:ファイアウォールの役割と機能を説明できる。 a:質的データと量的データの違いを理解できる。[知] a:名義尺度，順序尺度，間隔尺度，比例尺度の違いを理解できる。 b:欠損値や外れ値などのデータを処理することができる。[思] c:仮説を立てたものを分析し、わかりやすく発表することができる。	・定期考査 ・実習テスト ・実習課題	・定期考査 ・実習テスト ・実習課題 ・発表	・振り返りレポート ・実習課題 ・相互評価 ・発表 ・ワークシート分析
三学期	3章 プログラミング	31 アルゴリズム 32 アルゴリズムの表現 33 プログラミング基礎 *プログラミング （アルゴロジック、Scratch） 〈番外編〉 68 プログラムで動きを表現	a:アルゴリズムの制御構造を理解できる。 c:フローチャート通りにプログラムが実行されるまで、何度も繰り返し取り組んでいる a:プログラムのデータ構造を理解できる。	・実習課題 ・実習テスト	・実習課題 ・実習テスト	・振り返りレポート ・実習課題 ・ワークシート分析

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度